

# 東京秋工会の皆様へ

衆議院議員

**富樫 博之**

(昭和50年機械科卒)



菅 義偉 前総理と

謹啓 秋工同窓会の皆様におかれましてはご清祥のことと存じます。長い冬も終わりを告げ、秋田にも春の足音が近づいて参りました。

私は平成7年に秋田県議会議員に初当選し、平成26年には衆議院議員に当選、お陰様で議員生活も早27年を迎えました。昨年の衆院選当選後復興副大臣を拝命しました。復興庁の政務三役に被災地東北選出は私一人であり日々責任の重さを日々感じております。

## ○あの日、あのとき... 2011.3.11

平成23年3月11日、14時46分。

この日この時間、わたしは県議会議長席にいました。

秋田県議会の最終日、採決の直前。突然縦揺れとも横揺れとも言える大きな揺れに議会内は見舞われました。

「地震だ!!」(誰かが叫んだ)

とっさに議長席のマイクを握り、「皆さん、机の下に隠れてください」と絶叫したのを覚えています。

直後、停電。

避難を促す職員に続き、議会内にいる全員が避難しました。騒然とする庁舎内。

私はすぐ議長室に戻り、事態の把握に努め、少ない情報の中で県民市民の安全の確認に奔走しました。

携帯電話も繋がらず、全国民が不安に苛まれたのは言うまでもありません。

そのあとの出来事は様々なかたちで報道された通り、東北地方を始め12都道府県に甚大な被害をもたらし、原発事故、津波の被害は激甚であり18,425人の死者・行方不明者をだす大災害となりました。

原発避難者の数はピーク時には6万人を超え、未だに26,692人が福島県外に避難しております。この方々の帰還が私に課された使命であると痛感しております。



東松島市追悼式



復興大臣幹部会議

震災で破壊された町の復興はこの11年で相当な規模で完成を遂げました。ハード面の工事は終わりを告げつつありますが、ソフト面での支援が今後の課題になります。今後も被災された方々に寄り添い、復興副大臣として課題解決に誠心誠意努めてまいります。

## ○産業の創出

世界中で今注目されている一つに洋上風力発電があります。私は当選当初から衆議院経済産業委員会に所属し、洋上風力発電の早期導入に向けた前向きな答弁を引き出す為、何度も質問を繰り返して行ってきました。

当時、東日本大震災をきっかけにこれまで約3割を供給していた原子力発電が停止し、それに伴う電力不足の大部分を賅うために火力発電をフル稼働することが必要となりました。電源として海外からの化石燃料に依存する割合が急増していました。このため政府は福島の復興・再生を全力で成し遂げ、震災前に描いてきたエネルギー戦略を白紙から見直すことを出発点とし、2014年「第四次エネルギー基本計画」を閣議決定しました。この頃から国内における日本のエネルギー政策は大転換期を迎え、地球にやさしくクリーンな発電方法として省エネルギー・再生可能エネルギー、特に欧州で既に導入されている洋上風力発電が期待されるようになりました。

秋田県への導入に向けた動きとしては様々な障害があったものの、関係各位のご協力のもと一つ一つ丁寧にクリアしていくことでその先の経済波及効果や新たな産業の創出など、今後の展望が開けていきました。

その結果、我がふるさと秋田県は国内モデルの先端を走り、全国から注目されています。コンパクトシティやスマートシティなど新しい地域づくりの機運が高まってきている中で、再生可能エネルギーの一つである洋上風力発電事業は様々な場面で活躍が増えると考えます。

その結果、我がふるさと秋田県は国内モデルの先端を走り、全国から注目されています。コンパクトシティやスマートシティなど新しい地域づくりの機運が高まってきている中で、再生可能エネルギーの一つである洋上風力発電事業は様々な場面で活躍が増えると考えます。



自民党代表質問(本会議場)



洋上風力発電事業関連

